

## 組織評価の改善状況報告書

平成 28 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部長

組織評価に関する実施要項第10条に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成27年度の改善状況を報告します。

|  |
|--|
| 要改善事項  |
| 「総合知」獲得カリキュラムの発展と検証プロセスの構築   |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）   |
| <p>学部の教育企画委員会内部に「総合知育成のための組織的取り組み」に関するワーキング・グループを立ち上げ、カリキュラム改革案を作成する（既に立ち上げ済み）。具体的には、既に他学科の専門領域を学習するために立てられている学部共通専門科目の充実化を図り（2013年度後期より「人文社会科学の課題と探究Ⅰ、Ⅱ」開設）、さらに副専攻的な履修モデルを提示するなどして、他学科科目の履修を促す（別表や学部案内作成時期までに）。</p>   |
| 改善状況   |
| <p>平成 28 年度から開始する「国際日本学副専攻」を設計し、プログラムを完成させた。アジア・ブリッジプログラム副専攻、地域づくり副専攻と並んで、3つの副専攻を整備し、学生の自主的な「総合知」獲得意欲を高める改善をおこなった。</p> <p>併せて、学部共通専門科目を見直し、副専攻を推進する体制を整えるとともに、これまで各学科で個別に立てていた複数の科目を学部共通専門科目と位置づけて、学部全体で推進する体制を整えた。</p> <p>「人文社会科学の課題と探求Ⅰ、Ⅱ」のさらなる発展を図り、学部長裁量経費を利用した外部講師の活用、学生の自主的な発表機会を設ける、学生からの質問に対して、担当教員全員が壇上でディスカッション形式で答える、というような応答的な授業を作成した。</p> <p>法学科で既に行っている学務情報システムのポートフォリオ利用を拡大すべく、学部教員全体を対象にFD研修会を行った。</p> |
| 達成年度（予定を含む）  |
| 27年度   |
| 28年度以降は、実効性を検証しつつ、改善する。  |

要改善事項

|  |
|--|
| 国際化に対応した外国語（特に英語）能力獲得  |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）   |
| <p>専門科目としては、英語による授業ができる教員採用を検討する（来年度以降の人事計画作成時まで）。また授業を新たに英語で行うことを決定した教員に来年度の研究費増額を検討する（シラバス作成時期までに）。共通科目の英語については、TOEIC得点別に、履修モデルを作成し、広報する他、教務委員会で実態を調査する（今年度末までに）。授業外では英語のみで会話するEnglish Caféを週一回開設する（10月開始）。</p>  |
| 改善状況   |
| <p>英語習得を大きな柱とする国際日本学副専攻プログラムを完成し、28年度から実施する。英語による授業を実施できる教員を増やすため、英語授業に関するFD研修会を2回開催した他、社会学科でも他大学大学院の英語使用授業について、調査報告会を行った。</p> <p>海外留学を促進するため、これまでの海外研修Ⅰ・ⅡにⅢ～Ⅴを加え、対象も拡大して単位として取りやすくする改革を行った。国際日本学副専攻では必修単位とした。</p> <p>昨年度成功をおさめた英語による詩の朗読会の教育効果を継続・発展させるべく、学生たちが、6カ国語（日英仏独西中）で朗読をおこなう「考える森の朗読会」を市民に開放するイベントとして開催した。</p> <p>英語を磨くEnglish Caféを継続して開催し、さらに中国語による「毛毛語茶園茶カフェ」が開始された。中国語朗読大会（前期）と中国語弁論大会（後期）を開催し、獲得した語学力を発揮する場を設けた。</p> |
| 達成年度（予定を含む）  |
| 27年度   |
| 国際日本学副専攻、および海外研修の科目数と対象拡大は28年度から開始する。  |

|  |
|--|
| 要改善事項  |
| フィールドワークなど体験型教育の一層の充実  |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）   |
| <p>各学科別に行われているフィールドワークの実態を調査し（今年度末まで）、学部長裁量経費を利用するなどしてさらなる充実・拡大を図る。学部横断的なフィールドワークの試みができないか検討する。（今年度末まで）</p>  |
| 改善状況   |
| <p>社会学科では1年次から始まるフィールドワーク教育とその成果のプレゼンテーション教育を継続、発展している。</p> <p>県立美術館で来館者向けにギャラリー・トークを行う言語文化学科の授業など、すべての学科において、地域との関わりを重視した授業を展開している。</p> <p>学部横断的なフィールドワークの試みとして、学部長裁量経費を用いて、2学科の教員と他学部・他大学の教員・学生とも連携した地域連携型フィールドワークプログラムである「地・デザイン・ジャパン@静岡」を実施した。</p> |
| 達成年度（予定を含む）  |
| 平成27年度   |

|  |
|--|
| 要改善事項  |
| 女性教員・外国人教員の増大  |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）   |
| 男女共同参画を推進する静岡大学の「ビジョンと戦略」を重視し、女性教員が働きやすい環境作りをさらに進めるほか、公募の際に評価が同等の場合は女性の候補者を優先する選考を増やすことを検討する。外国人教員についても全学的に開始された「外国人教員採用加速システム」を利用して外国籍の教員の採用を検討する（来年度以降の人事計画作成までに）。 |
| 改善状況   |
| 国際日本学副専攻を担える英語ネイティブ教員の採用を検討している。<br>平成27年度に採用した新任教員8名のうち、2名は女性である。   |
| 達成年度（予定を含む）  |
| 29年度   |

|   |
|---|
| 要改善事項   |
| アドミッション・ポリシーの実効性を高める。   |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）  |
| アドミッション・ポリシーを学部案内や学部のホームページ等で見易いところに掲載するなどして、受験生への周知徹底を図る（今年度末までに）。 |
| 改善状況  |
| 学部HPの「入学希望の方へ」トップページに、アドミッション・ポリシーを掲載し、周知を図った。                      |
| 達成年度（予定を含む）   |
| 平成27年度  |

|   |
|---|
| 要改善事項   |
| グローバル化に対応した国際交流の一層の推進   |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）  |
| 在学生の短期・長期留学を増大させるために、提携校の拡大、私費留学やワーキングホリデーの単位化、留学報告会の開催等の手段を講じる（今年度末まで）。また留学生との交流会やEnglish Café（その他の外国語のCaféを含む）の開設を行う（今年度秋までに） |
| 改善状況  |
| 英語習得を大きな柱とする国際日本学副専攻プログラムを完成し、28年度から実施する。海外留学を促進するため、海外留学を海外研修Ⅰ～Ⅴとして単位化し、国際日本学副専攻の必修単位とした。                                      |

留学生や他学部の学生を含めて60名の学生たちが、6カ国語で朗読をおこなう「考える森の朗読会」を、市民に開放するイベントとして開催した。

アメリカ人講師が運営し、英語で話すことを楽しむEnglish Caféを継続して開催した。

中国語による「毛毛語茶園茶カフェ」を新設した。学期中の月曜昼休みに常設し、中国語教員1名、中国人留学生1名が在室して、年間延べ400名の「来園者」を集め、日本人学生と留学生の交流の場ともなった。英語、中国語の会のどちらも学部の電子掲示板などで広報し、希望者が集っている。

「海外研修」の拡大に伴い、学部主催の短期留学を実施する相手校を探すため、フィリピン、ベトナムで教員が調査を行った。

達成年度（予定を含む）

27年度

国際日本学副専攻および、海外研修の科目増と単位増は28年度から開始する。